

3年ぶり ことぶき大学が開講

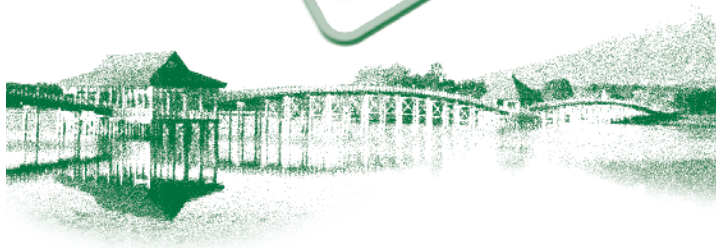
6月22日（水）、町のお年寄りに学習や活動の場を提供し、健康で生きがいを持ってもらうことを目的とした「鶴田町ことぶき大学」が3年ぶりに開講しました。

開講初日となったこの日は、青森県防災士会の工藤廣道氏を講師に招き「災害弱者防災教室」が行われました。講座では鶴田町に発生する可能性がある災害や過去の災害事例を紹介し、その対処法などを講演。また、緊急時に履物がない時の対処法として、新聞紙で作るスリッパの作り方を教えていました。

今年度のことぶき大学は10月まで行われる予定。途中からの受講も可能なので、興味のある方は教育委員会までご連絡をお願いします。



△新聞紙スリッパを作る受講生たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

町上下水道協会が抗原検査キットを寄贈

町上下水道協会（山田松男会長）は6月1日（水）、新型コロナウイルス対策に役立ててほしいと、町に抗原検査キット65セットを寄贈しました。

山田会長と坂本興平副会長が町役場を訪れ、相川町長に検査キットを手渡しました。



△相川町長にキットを手渡す山田会長（中央）

消毒用アルコールを町社協に寄贈

第一生命保険青森支社五所川原営業オフィス（廣田宗亮オフィス長）は5月30日（月）、鶴田町社会福祉協議会（中野撃司会長）に手指消毒用アルコール12本（1本1ℓ）を寄贈しました。

同社は地域貢献活動で物品の寄贈やゴミ拾いなどに取り組んでいます。



△中野会長（左から2人目）に手渡す廣田オフィス長（同3人目）

県内外の特産品が集合 あるじゃ周年祭

6月18日・19日の2日間の日程で、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」で、21周年記念祭が開催されました。町が友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町や、あるじゃが交流を持つ全国各地から14の道の駅の特産品が並びました。

3年ぶりの参加となるさつま町のブースでは、周年祭で大人気のさつま町直送のカボチャやさつま揚げを求める買い物客でにぎわっていました。その他の販売ブースでも多くの買い物客が訪れており、道の駅十三湖高原のブースでは、十三湖のシジミのすくい取りが行われ、買い物客が大中小のスコップをくじで決めてしじみすくいに挑戦していました。

道の駅つるたによると、2日間で町内外から約14,000人が訪れたそうです。



△多くの方がさつま町直送のカボチャを求めていました



△富士見湖パーク内の清掃活動にいそむ職員たち

信金が津軽富士見湖周辺を清掃奉仕

青い森信用金庫（益子政士理事長）は、地域貢献活動の一環として、6月25日（土）に弘前・津軽地区10店舗の役職員69名による「津軽富士見湖周辺の清掃奉仕活動」を実施しました。

同金庫が2022年12月27日に創業100周年を迎えることから、地域のお客さまへの日ごろの感謝と、役職員の健康増進を目的に実施。当日は各営業店の職員が3班に分かれ富士見湖パークや鶴の舞橋、丹頂鶴自然公園周辺の清掃活動を行いました。

また、この取り組みは「青い森信用金庫 SDGs 宣言」の地域の環境保全のための取り組みでもあり、地元の豊かな自然環境を次世代につなぐための活動とのこと。



△弥生画の制作に挑戦する川口さん



Vol.48 (筆: 川口翔大)

弥生画の体験教室に参加してきました。全国で唯一、鶴田町で継承されている穀物アートということで、興味津々で体験してきました。五穀豊穡を願った弥生画は、農業が盛んな鶴田町にきっと豊作をもたらしてくれますね！作業中は、手が震えたりメガネがずり落ちたりと細かい穀物たちに悪戦苦闘しましたが、集中していたので時間が過ぎるのがあっという間でした。町には「元町弥生会」と「山道弥生保存会」の二つの団体があるとのこと、今年は両方の弥生画を楽しみに時期を待ちたいと思います。

7月、9月にもワークショップ開催の予定があり、詳しくはwebサイト「メデタイツルタ」で案内があるみたいです。楽しみですね！

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。